

平時からの顔の見えるネットワークを 活かして地域住民を災害から守る!

～今後の災害への備え～



釜石広域災害VC設置運営研修訓練の写真



9月26日、釜石広域市町村ネットワーク連絡会議



10月18日、釜石広域災害ボランティアセンター設置・運営訓練

【災】 害VC設置運営研修訓練に
ます。
は、釜石市と大槌町の社協職
員（本部以外の職員も含む）のほか、
「若手県内市町村社会福祉協議会災
害ボランティアセンター設置・運営
マニュアル」に基づく後方支援の市
町村社協職員、行政、ボランティア
団体連絡協議会、NPO、一般社団
体、東日本大震災時に釜石市と山
田町に支援に来ていた愛知県東海市
社協（釜石市社協、山田町社協と災害
協定を締結の職員が参加しました。
最初に、参加者で災害VCについ
て理解を深めた後、釜石、大槌A、

大槌Bの3グループに分かれ、「大雨
災害による甚大な被害」という想定
で、ボランティアの受け入れから派
遣までの流れや役割分担等を確認す
るグループワークを行い、1グルー
プずつ災害VC運営の訓練を行いま
した。参加者の中には、東日本大震
災時に、実際に災害VC運営に携わっ
た社協職員や被災地支援の経験があ
る職員が複数おり、設定するボラン
ティアや被災者のニーズが具体的か
つ現実的で、想定外のこと起きて
も臨機応変に対応する場面が見受け
られました。訓練終了後には、訓練
をやった終わりではなく、訓練の

【近】

年、地震、豪雨、土砂等によ
る大規模な自然災害が頻発
化、激甚化、広域化しています。今
年は元日に能登半島地震が発生し、
その支援活動が継続されている中、
7月には山形県・秋田県豪雨災害が
発生しました。

実際に災害が起きた場合、被災地
の社協は災害ボランティアセンター
（以下「災害VC」と表記）を立ち
上げ、被災者宅の泥かき、ガレキ撤
去作業や困りごとの相談支援を行
い、様々なボランティアの力をつな
げていきます。しかし、社協だけで
対応するのにも限界があり、災害
VCの運営を支援する担い手が必要
となってきます。地域には、民生委
員、自治組織、行政、支援団体、
NPO、専門職団体、企業など様々
な担い手がいます。平時からこれら
の担い手と情報交換するなどして顔
の見える関係を築いておくことで、
連携・協働しながら被災者のニーズ
にきめ細かに対応する支援が可能と
なります。

【い】

つどこで発生するか予知でき
ない自然災害…。こうした災
害に備えるため、県社協が取り組ん
でいるのが、市町村域のネットワー
ク連絡会議（以下「ネットワーク会
議」と表記）の開催支援や市町村に
おける災害VCの設置運営研修訓練

【事】

業担当者である大槌町社協五
十嵐幸太さんは「災害がいつ
起きるか…。また大槌町で起きるか
もしれない…。だからこそ、災害
VC運営の経験のない職員も対応で
きるようにしておきたいという思い
があります。ネットワーク会議、災
害VC設置運営研修訓練は継続して
実施していきたいです。大槌町では
このほかにも、関係団体や高校生等
とで、それぞれがどのような活動を
行っているかを共有する「情報共有
会」という場があるので、平時から
顔の見える関係ができています。や
はり、平時の取組とその積み重ね、
そして実施後の振り返りは大事です
よね。」と連年の事業を終え安堵の表
情を浮かべながら、改めて関係機関



大槌町社協
五十嵐幸太さん

です。平時から関係機関との連携を
強化するとともに、災害時には被災
者や被災地域に寄り添い、生活再建
に向けた支援を円滑に行うことがで
きるよう取組を進めています。
ネットワーク会議は、顔の見える
関係づくりの場です。地域の担い手
それぞれの強みや得意なことを互い
に理解し、災害時の対応を検討・共
有します。こうした機会を積み重ね
ることにより、いざという時にすぐ
に連携・協働でき、安定かつスムー
ズな災害VCの運営が期待できます。
【県】 社協では今年度、県内10市町
村でネットワーク会議と災害
VC設置運営研修訓練を実施してい
ます。今回は、このうち釜石広域（幹
事：釜石市社協、実施：大槌町社協）
の取組内容を紹介します。
釜石広域では、1年ごとに釜石市
社協と大槌町社協で担当を交代しな
がら、ネットワーク会議と災害VC
設置運営研修訓練を実施していま
す。今年度は大槌町社協が担当で9
月26日にネットワーク会議を開催
し、それを踏まえた上で、10月18日
に災害VC設置運営研修訓練を実施
しました。釜石市と大槌町とは、
災害に対応できる地域の担い手、こ
れまでの経験や実施方法、それぞ
れの強みと弱みが異なることから、そ
れぞれの市町の進め方を尊重してい

このネットワークと訓練の大切さを
噛みしめるように話してくれました。

令和6年
10月15日現在

能登半島地震、山形県・秋田県豪雨災害への支援状況

県社協及び市町村社協では、災害VC設置運営研修訓練等で災害VC運営の知識やスキルを培った
職員が被災地の災害VCの運営支援を行っています。

- ◆能登半島地震
石川県志賀町社協災害VCへ延べ23人を派遣。 ※令和6年6月末で職員派遣終了。
- ◆山形県・秋田県豪雨災害
山形県酒田市社協災害VCへ延べ40人を派遣。